



令和元年10月25日

## ジビエファーム落成式および施設完成のご報告

くまもと☆農家ハンター  
株式会社イノP 代表取締役 宮川将人  
取締役 稲葉達也

爽秋の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
また、日頃より鳥獣被害対策並びに「くまもと☆農家ハンター」の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

我々「くまもと☆農家ハンター」が、「地域と畑は自分たちで守る！」という志のもとに取り組んできた活動も3年半を越え、今年8月から建設を行って参りましたジビエ処理施設「ジビエファーム」が、今月10月30日(水)に完成を迎え、施設の落成式を執り行う事となりました。

今後、地域課題解決の一役を担う施設となっていく事を祈念して熊本県の小野副知事はじめ、農家ハンター活動を日頃から応援していただいている関係者のみなさまにご参列いただき落成の日を祝したいと思っております。

つきましては大変ご多忙中と存じますが、当日は施設の内覧会も行いますので、是非お越しいただければと存じます。お越しいただける場合には10月28日までに、下記まで連絡いただけますと幸いです。

ご検討の程、どうぞよろしく願いいたします。

**会 場** : ジビエファーム (熊本県宇城市三角町戸馳1945-1)  
\* 駐車場は三角方面から橋を渡って右折してすぐの広場  
**日 時** : 令和元年10月30日 (水)11時～  
  
10時45分 来賓向け施設の内覧会 約10分  
  
11時00分 落成式 開会  
主催者挨拶、来賓挨拶、テープカット、感謝状贈呈式など  
  
11時30分 閉会  
お祝い弁当ランチ at ジビエファーム前広場

### ご連絡先

くまもと☆農家ハンター

事務局(有限会社宮川洋蘭内)

TEL: 0964-53-0752 FAX:0964-52-4246

kumamotohunter@gmail.com

# ジビエファーム 施設の概要

施設名称： 農家ハンター☆ジビエファーム  
(捕獲したイノシシの食品化施設)

地名地番： 熊本県宇城市三角町戸馳1945-1

建築面積： 113m<sup>2</sup>(34坪)

構造： 木造平屋建て(小国杉を使用)

施主： 株式会社イノP \*別添資料参照

総工費： 4,000万円 \*年度内に建設予定の二次処理設備費込み

資金調達： 熊本第一信用金庫 融資(21,000千円)、(一財)県起業化支援センター融資(20,000千円)  
平成30年度ジビエ倍増モデル国庫事業(9,196千円)



着工前、図面から自作した完成予想図



令和元年8月上旬



基礎工事の様子



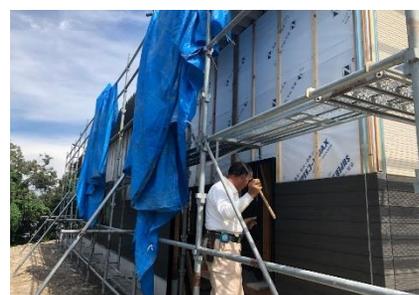
棟上げの様子



8月24日上棟式



木材は小国杉を使用



サイディング設置



9月7日 二回の雨天延期の後 大餅投げ大会



10月末 ジビエファーム 施設の完成

# くまもと☆農家ハンターについて

「もう、農業やめようと思うとたい…」

農家をしているおばあちゃんのこの一言がはじまりでした。

2016年2月16日、収穫日前のデコポンをイノシシに食いつくされた農家のおばあちゃんのこの一言がはじまりでした。

現在、イノシシによる農作物被害は、離農につながる深刻な事態となっています。この20年でイノシシの個体数は約3倍に増えているにもかかわらず、それを駆除できる狩猟者は半減しており、問題解決の糸口すら見えていないのが現状です。

さらに里山に下りてきたイノシシによる人身被害や車両との衝突事故は後を絶たず、住民の日常生活を脅かす事態となっています。しかし、イノシシの被害に嘆いているばかりでは何も変わりません。

地域を災害から守る消防団活動のように、鳥獣被害から地域を守ることを目指して、若手農家によるイノシシ対策の活動を始めるに至りました。

これが「くまもと☆農家ハンター」の結成・活動のきっかけです。「地域と畑は自分たちで守る！」を念頭に、イノシシ被害の減少と対策を行う担い手の育成を目指しています。

## 事例 鳥獣対策を通じた地域の担い手育成（熊本県）

熊本県宇城市の宮川将人さんは、地域におけるイノシシ被害が深刻であることを知り、また、猟師や行政に頼るばかりではなく農家自身が取り組む必要があると考え、農家による自衛組織「くまもと☆農家ハンター」を立ち上げました。参加する農家は約100名で、その全員がイノシシ対策の担い手として活動しており、また、防除活動を通じて地域の担い手育成を進める観点から、年齢層は25歳から40歳となっています。

「くまもと☆農家ハンター」では、農作物を返礼品とするクラウドファンディングで対策に必要な資金を調達し、ICTを活用した箱わなによる捕獲を進めています。また、地域と畑を守る取組として、捕獲のみならず、防護柵の設置や講習会の開催等の活動も実施しています。さらに、経験豊富な猟師から得た技術や知見をマニュアル化し、クラウド上でメンバーに共有しています。

代表の宮川さんは、全国に活動が広がるように仲間と応援してもらう人を増やすこと、SNSでの情報発信やICTの活用を積極的に行っていくことを通じて、これからの農村をけん引していくリーダーを育成したいと考えています。

※平成30年度「農業白書」にて鳥獣対策を通じた地域の担い手育成として農家ハンターの取組が紹介されました。



講習会の様子

## 地域の盛り上がり

※宇城市広報誌「ウキカラ」で2018年10月号表紙&10pの特集

→市民へ活動の見える化と啓蒙



私たちの活動は狩猟と違い、防護が基本スタンスです。



農家ハンターが描く地域の未来と担い手作り



農水省ジビエチャンネル「ジビエト」での特集動画

## 【主な受賞等】

- ・2018年12月 農水省主催 ディスカバー農村の宝 農政局長賞
- ・2018年12月 国連生物多様性アクション大賞 農林水産大臣賞受賞
- ・2019年2月 農水省 地域課題解決型ビジネスBEST 8 モデルに選定
- ・2019年6月 国連SDGs 世界の優良事例として公式サイトで掲載中
- ・2019年10月 Good Design賞にてコミュニティデザイン部門受賞

## 【主な掲載歴】

- ・2018年9月 宇城市広報誌「ウキカラ」で特集記事
- ・2018年10.11月 熊本日日新聞「過疎と向き合う」で6回連載
- ・2019年1月 日本政策金融公庫月刊誌「AFCフォーラム」で特集
- ・2019年6月 農水省の最新「農業白書」鳥獣対策優良事例で掲載

# 株式会社イノPについて

## 【事業会社 設立の背景】

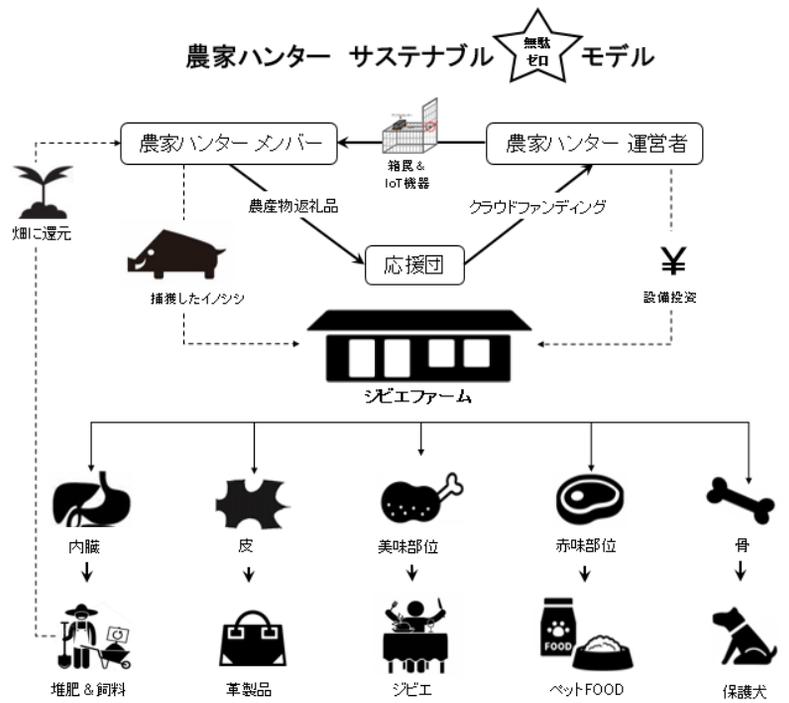
ここ宇城市三角でできた農家主体のイノP対策モデルをこれまではボランティア活動として地元で行ってきましたが、一つ大きな悩みを抱えていました。

捕獲した約1,000頭ものイノPを埋設するしかない事です。専用の処理加工場がないと食品として販売することができません。

そこで今年、農家ハンターメンバーの中から鳥獣被害対策を事業として取り組みたい仲間を募り、事業会社を立ち上げました。さらに400万円もの資金調達を行い、ジビエの利活用をしていくためにジビエファームを建設しました。

## 【今後の目標】

防護、捕獲、ジビエ、流通まで行う農家ハンターモデルを全国の鳥獣被害に苦しむ地域、そして世界へと広げていきます。また農業とジビエを合わせて地域活性化に繋げて行きたいと考えています。今後どうぞご期待ください。



代表(宮川将人)



事業総括

取締役(稲葉達也)



現場講習/技術開発

社員(井上拓哉)



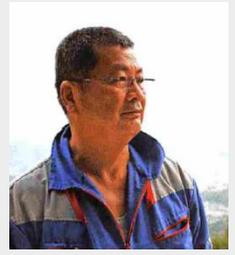
調査/捕獲/発信

会計(宮川水木)



事務/会計等

特別顧問(山本哲彦)



猟友会支部長/技術指導

## 【会社概要】

創立 : 平成31年1月29日 令和元年8月1日株式会社移行

資本金 : 100万円

資金調達 : 熊本第一信用金庫、熊本県起業化支援センター

司法書士 : むらなか司法書士事務所

顧問税理士 : 税理士法人C&A(熊本市)

所在地 : 熊本県宇城市三角町戸馳397(有限会社宮川洋蘭内)

## 【事業内容】

- 1、農産物、ジビエの生産及び加工販売
- 2、農作業の受託や管理作業
- 3、地域の担い手となる農家ハンターの研修事業
- 4、市町村を対象にした鳥獣対策担い手育成プログラム
- 5、野生動物を保護・管理するための機器の開発と販売



### 農家ハンター★ジビエファームの挑戦

クラウドファンディングにもチャレンジ中です。試作を重ねて完成したジビエカレーや絶品ハム、てんこ盛りの農産物などの返礼品にもご期待下さい。よろしければこちらから応援いただけると幸いです。11月12日まで



¥ 支援金額	1,346,860円
¥ 目標金額	3,500,000円
達成率	38%
支援人数	95人
終了まで	20日